

第50回 東北鍼灸学会学術大会 福島大会が開催されました！



9月18、19日に郡山市・ビッグパレットふくしまにて第50回 東北鍼灸学会学術大会 福島大会が開催されました。50回という節目の今大会では、新しい時代の東北鍼灸学会を意識し、分科会形式の講演やワークショップを初めて導入しました。特別講演2題、講演3題(内、実技講演2題)、東北各県ポスター発表、青年部ワークショップ、市民公開講座と、見どころ満載の大会となりました。



開会式が終わってから、中会議室と小会議室では同時に2つの実技講演がスタート。どちらの会場もスポーツに携わる鍼灸師が集まり、講師に熱い視線を注ぎます。左側は「ダイナミックロト・セラピー」創始者・溝口哲哉先生。右側は JOC 医科学強化スタッフ・大高茂先生。どちらの先先生も競技者の治療という緊迫した場面を想定した、とても熱い内容でした。



2つの熱い講演が行われている陰で、ひっそりと、でもエネルギッシュな会場がありました。そう、東北各県のポスター発表です。スポーツ競技の現場における治療活動やチームの帯同記録等を各県担当者の視点で報告がなされ、同時にリアルタイムで意見交換ができるワークショップの要素を取り入れました。それほど広くない会場ではありましたが、人口密度で言えばポスター発表会場が一番の混雑ぶりでした。

18日の夜は郡山ビューホテルアネックスにて懇親会が開催されました。70名を越える参加者が集い、着席スタイルで美味しい料理を囲みながら、終始和やかなムードで進行しました(司会が優秀だったから(笑)?)。矢野学会会長の挨拶に『若い頃は先輩鍼灸師と夜遅くまで酒を飲みながら臨床の話聞かせてもらっていた』とありました。それを聞いてか、先輩のところへ積極的に酌していた若手鍼灸師の姿が印象的でした。



翌日は9時から特別講演が2題。閉会式の後、東北ブロック青年部ワークショップと市民公開講座が開催されました。市民公開講座は鍼灸師はもとより、一般市民から競技者まで幅広い層の方々が来場され、講師の朝日山一男先生のお話を興味深く聴講されていました。市民公開講座の後半には経絡ストレッチの実技もあり、朝日山先生の指示のもと、聴講者は動診から導き出された各種ストレッチを実際に行い、その即効性に驚いていました。



全てのプログラムが終了し、福鍼会の皆さんで記念撮影。皆さん、疲れた顔の中にもやりきった充実感がにじみ出ていますね。お疲れ様でした！

昨年の7月末、会津医療センターで開催された夏季学術講習会が終わった後、同センター1階のカフェテリアに青年委員が集まって最初の話し合いがなされました。それから1年以上を掛け、6回の実行委員会を経て、ようやく福島大会を開催することができました。



冒頭に書きましたが、節目となる50回目の本大会は新たな試みに挑戦した大会でもありました。ここに至るまでにたくさんの案が出され消えていきました。経験豊富な先生方のアドバイスと青年委員の情熱がなかったら、この挑戦はきっと失敗していたでしょう。会頭が『福鍼会の団結力は凄い!』とコメントされていましたが、まさに個々の力が集結して成功へ導いたものと思っています。今後も皆さんのお力をお借りしながら乗り越えていきたいと考えています。どうか、これからもお力添えをよろしくお願い致します。